

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	地水利調査中、消火栓の蓋で指を挟まれた事例
3. 体験した事例の中心的要素	消防車両で消火栓の点検・清掃のため、職員1名が消火栓キーで消火栓を開け、他の1名が手で保持をする際に消火栓キーから消火栓蓋が滑り、消火栓枠と鉄蓋の間に右中指を挟まれたもの。
4. 体験した事例の原因・理由	<ol style="list-style-type: none"> 1 注意力の欠如。 2 蓋を手で支える動作に問題があった。 3 消火栓キーを掛ける蓋の溝が浅く、開けるにつれ外れ易くなる。 4 隊員間の意志疎通の欠如。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 20 年 3 月 15 日	午前 11 時頃
2. 発生した当時の天候	晴	
3. 発生した活動現場	屋外：公道上	
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）		
7. 事例体験時の活動	警防調査 []	
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：地水利調査	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	数年に1度程度の割合で体験している。	

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[41]歳、勤続年数[24]年、現場経験年数[23]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [頻繁]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	Bが	消火栓の点検・清掃作業中、右手の指を枠と蓋に挟まれた。	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思いませんか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思いませんか？

集中力、注意力がなかった。資機材の操作がうまくいかなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：安全確認不足	
-----------	--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

安全衛生管理委員会において、公務災害発生事例として問題と安全対策の検討を行い、交差点付近の消火栓点検については、点検する職員が焦らないよう、点検職員以外の者が、交通整理など事故防止活動を行う。

○装備・資機材の対策について

消火栓キーの改良及びバール等を隙間に差込むなど、まず安全確保の対策を行う。

○活動環境の対策について

滑りやすい皮手袋を使用せず、厚みのあるケプラー手袋を使用する。

○指揮・情報伝達の対策について

職員同士が声の掛け合い危険を回避する。

公務災害発生事例

〇〇消防署

発生日時	平成20年 3月15日(土) 11時00分頃 (晴れ)
発生場所	〇〇市〇〇町〇丁目〇番31号先道路上
被災職員	B消防司令補
事故事例	<p>平成20年3月15日午前10時10分頃、〇〇2号車(中隊長以下4名)で、〇〇管内〇管区〇分区の地水利調査を実施するため武庫分署を出発。</p> <p>午前11時頃、〇〇町〇丁目〇番31号先道路上に設置(〇〇工場北西角)されている第808号消火栓の点検・清掃を実施するため、1名が消火栓キーで消火栓の蓋の開閉作業を行い、隊員2名で開いた蓋を保持する作業をする際、A隊員が蓋を保持しようと手を差し出した時に消火栓キーが蓋から滑り、A隊員の右中指示が蓋と消火栓の鉄枠の間に挟まれ負傷したものの。</p>
負傷程度	右中指示切創
問題点	<ol style="list-style-type: none"> 1 日常的な業務の一連の動作のため、全員の注意力の欠如。(危険予知の欠如) 2 蓋を手で支える動作に問題があった。 3 蓋の消火栓キーを掛ける溝が浅く、蓋が直角になるにつれキーが外れる虞がある。 4 皮手袋を使用していた。 5 隊員間の意思疎通の欠如。
安全対策	<ol style="list-style-type: none"> 1 声を掛け合う等により危険を回避。 2 蓋の開閉は、キーが外れる事を想定し、パール等を隙間に差込む等の対策をとる。 3 皮手袋でなく厚みのあるケプラー手袋を使用。